別紙様式１（高）

# 令和５年度　学校経営計画表

## １　学校の現況

| 学校番号 | 78 | 学校名 | 県立下妻第二高等学校 | 課程 | 全日制 | 校 長 名 | 鮏　川　好　夫 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教 頭 名 | 湯　本　麻　矢 | | | | | 事務(室)長名 | 近　藤　大　介 |

| 教職員数 | 教諭 | 46 | 養護教諭 | 1 | 常勤講師 | 2 | 非常勤講師 | 5 | 実習教諭 実習講師 実習助手 | 1 | 事務職員 | 3 | 技術職員等 | 4 | 計 | 65 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

| 生 徒 数 | 小 学 科 | １年 | | ２年 | | ３年 | | ４年 | | 合計 | | 合　計 クラス数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | |
| | 普 通 科 | 124 | 156 | 115 | 162 | 117 | 132 | | | 356 | 450 | 21 |

## ２　目指す学校像

文武両道を目指して、知・徳・体のバランスの整った人材を育成する。国際理解教育を推進し、グローバル化に対応できる現代的な視野を育むと同時に、地域の核となる人間性豊かなたくましい人材を養成する。

## ３　三つの方針（スクール・ポリシー）

| | |
|---|---|
| 育成を目指す資質・能力に関する方針<br>（グラデュエーション・ポリシー） | ①文武両道を目指し、知・徳・体のバランスが整った人材<br>②国際理解教育を推進し、グローバル化に対応できる人材<br>③地域の核となる人間性豊かな人材 |
| 教育課程の編成及び実施に関する方針<br>（カリキュラム・ポリシー） | ①生徒の学習意欲を高める教科指導法の研究と改善を図り、学力の向上を目指す。<br>②大学進学を推進し、国公立大学20名以上合格と難関私立大学合格者増を図るため、進路指導の充実を目指す。<br>③県西地区の運動部・文化部の中心校として部活動の活性化を図り、各種大会での活躍を目指す。<br>④道徳教育やシティズンシップ教育の充実によって、責任ある心豊かな人材を育成し、主体的に社会の形成に参画する態度を養う。 |
| 入学者の受入れに関する方針<br>（アドミッション・ポリシー） | ①積極的に学習活動に取り組み、より高い学力を身につけたいと考えている生徒<br>②地域から世界のことまで、広く興味・関心をもっている生徒<br>③生徒会活動、部活動、ボランティア活動等に主体的に取り組む生徒 |

## 4　現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

| 項目 | 現状分析 | 課題 |
|---|---|---|
| 教科指導 | 教員同士、学年内での連携は見られるものの、お互いの授業を参観し研究し合う機会が極端に少ない。<br>平常課外や土曜課外等で学力を伸ばす指導を行っているが、生徒の家庭学習時間の確保および学習習慣の確立が弱い。（休日の学習時間：1時間未満3割、3時間以上2割程度）<br>生徒の思考力・判断力・表現力、知識・理解度ともに、まだ十分とは言えない。（進研模試学校平均点偏差値：40～45程度） | 相互授業参観等の機会を活用し、教員同士がお互いに授業改善できる環境を醸成する必要がある。<br>主体的な学習習慣を身につけさせるための授業の工夫及び生徒の学習に対する姿勢・意欲を喚起する工夫がより必要。<br>主体的・対話的で深い学びの実現を図り、知識や技術がより定着できる教科指導を目指す。 |
| 進路指導 | 進学希望者数は9割を超えている。うち大学進学者は6割程度であるが、大学進学希望者も推薦入試で早期に進学先を決定する生徒が多い。また、入学時における国公立大への希望は多いが、次第に減少する傾向にある。直近の進路結果では国公立大合格者が2年連続して2桁となった。<br>《国公立大合格者数》R1:2人 / R2:3人 / R3:17人 / R4:10人 | 日本の大学入学希望者総数が大学定員総数を下回る「大学全入時代」を迎え、入れる大学ではなく、入りたい大学への進路実現を目指す必要がある。<br>入学時の進路希望を３年間継続できるよう、計画的・継続的な面接指導を実施し、「総合的な探究の時間」やＬＨＲにおいて進路意識の高揚を図る。 |
| 生徒指導 | 生活全般の乱れは比較的少なく、挨拶、服装など、日常生活上での基本が身についている生徒が多い。<br>しかしながら、命に関わるような自転車での交通事故や金銭をはじめとする盗難、部室荒らしなどの事件も昨年度は何件か見られた。<br>また、生徒の中には高校生活になじめない者も若干見られ、スクールカウンセラーの活用は欠かせない。 | 引き続き規律ある生活と規範意識の高揚を目指して、きめ細かな指導を継続させるとともに、交通事故や学校事故の未然防止のため、自転車乗車時のヘルメット着用の呼びかけや、警察との連携が必要。<br>また、心的ケアの必要な生徒への対応を充実させるため、校内研修などを活用しながら、教育相談や面談等の充実を図る必要がある。 |
| 特別活動 | 大規模校としての優位性と献身的な指導者のおかげで、運動部・文化部ともに活発な活動と高い実績を上げている。<br>また、ＨＲ活動や行事等では、キャリア教育、シティズンシップ教育、道徳教育などの観点から、他者と協働しながら社会に貢献していく自己実現を目指している。 | 部活動については、今後の地域移行に伴う国や県の方針を鑑みながら、持続可能な部活動の運営を模索していかなければならない。<br>また、コロナ禍で中断されていた一般客を入れての文化祭など、生徒たちが生徒会を中心に主体的に創意工夫していく体制を再構築する必要がある。 |
| 国際理解活動 | コロナ禍で3年間海外語学研修が未実施。昨年度は代替活動として、アメリカの語学学校とのオンライン交流やワールドキャラバンを利用した多様な国々の方々との対面での意見交換を実施。また、本校生による近隣保育園での英語指導も行った。また、2年ぶりにALTも配属され、ベース校としてネイティブの英語に触れる機会も増え英語学習への強いモチベーションにもつながっている。実践的な英語学習や異文化理解に興味のある生徒たちは少なくない。 | 海外語学研修があるから本校に入学してきたという生徒もおり、昨年度国際交流委員会アンケート結果では「海外語学研修実施の場合必ず参加する」という生徒が29名であった。海外語学研修の復活が望まれる。ただし、持続可能な取組とするために、教師の引率業務負担の軽減等が課題。 |

| | | |
|---|---|---|
| 家庭・地域との連携 | コロナ禍においても、学校ＨＰの更新やメディアへの情報提供等により、保護者や地域住民への情報発信を充実させてきている。<br>従来よりＪＲＣや生徒会等を中心とした地域との交流活動は盛ん。<br>また「総合的な探究の時間」では、地域と積極的に関わりながら生徒が課題設定・情報収集・整理分析・まとめ表現等の活動をする場が設けられている。 | 地域の多くの方々に生徒たちの取組を知ってもらい、関心をもってもらい、協力してもらうことが大切。そのために、今後とも地域行政や市民団体等と積極的に関わり、あらゆる手段を活用して情報発信を充実させながら、社会に開かれた教育課程の実現を目指さねばならない。 |
| 効果的な教育活動の推進 | 教職員が時間外在校等時間縮減に向けた意識はもつようになってきたが、月 45 時間以上の者も依然存在する。部活動指導や生徒の進路実現のため、実際にはなかなか改善されていないのが現状である。 | 勤怠管理システム変更を契機に、より時間を意識したさらなる働き方改革が必要。 |

## ５　中期的目標

１　生徒の学習意欲を高める教科指導法の研究と改善を図り、学力の向上を目指す。
２　大学進学を推進し、国公立大学 20 名以上合格と難関私立大学合格者増を図るため、進路指導の充実を目指す。
３　県西地区の運動部・文化部の中心校として部活動の活性化を図り、各種大会での活躍を目指すことでチャレンジ精神を育み、高校生活での達成感・充実感を向上させる。
４　道徳教育やシティズンシップ教育の充実によって、責任ある心豊かな人材を育成し、主体的に社会の形成に参画する態度を養う。
５　持続可能な学校教育を担保するため、働き方改革を実行する。

## ６　本年度の重点目標

| 重　点　項　目 | 重　点　目　標 |
|---|---|
| ○授業改善と主体的学習態度の確立 | ①「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業実践を推進し、ＩＣＴ等も活用しながら、個々の生徒に応じた指導法の改善とサポート体制の充実を図る。<br>②授業第一主義の下、集中した授業を展開するとともに、自主性・主体性を大切にした学習習慣の定着を図ることで、進路実現に対応した思考力・判断力・表現力、知識・理解力を身に付けさせる。<br>③生徒の授業満足度（KPI）80%以上を目指す。 |
| ○より高い進路希望の実現 | ④より高い目標を実現するため、課外授業や模擬テスト等の有効活用と充実を図り、最後まで自分の目標をあきらめさせない。<br>⑤進路行事等の活用によりキャリア教育を充実し、生徒の資質・能力の向上を図り、社会に貢献できる人材育成のため、大学進学等を推進する。 |
| ○個人指導（面談）の充実 | ⑥面談等を通して、個々の生徒理解と保護者との共通理解を図る。 |
| ○豊かでたくましい責任ある人間性の育成 | ⑦部活動加入を推進し、豊かな人間関係の構築とコミュニケーション能力の育成、充実を図る。<br>⑧基本的な生活習慣及びマナーを身に付けさせるとともに、「総合的な探究の時間」やＬＨＲにおいて、道徳や道徳プラスを通した心の教育や健康教育の充実を図る。<br>⑨学校行事や生徒会活動、「総合的な探究の時間」などを通し、生徒一人一人が主人公となって、協働的、主体的に活躍できる活動を充実させる。 |

| | |
|---|---|
| ○国際理解教育の推進 | ⑩海外語学研修等を推進し、自国・異国の文化と国際平和理解を深める。<br>⑪海外生活体験者や外国人の活用、ＡＬＴの積極的活用を通して、国際理解を推進するとともに、積極的に英語を使う機会を設ける。 |
| ○情報発信の充実と地域との連携 | ⑫ホームページや学校通信、メディアを通して、学校の取り組みや生徒の活動を地域社会や近隣中学校に広く発信し、学校理解を促し、地域や中学校との連携を深める。<br>⑬ボランティア活動や「総合的な探究の時間」等を通して地域との交流を推進し、家庭･学校･地域が一体となって、生徒を支援し育成できる環境づくりを構築する。 |
| ○効果的な教育活動の推進 | ⑭持続可能な学校教育を展開するために、勤務時間を意識した働き方改革を推進する。 |